

第33回(2023年)
全国花のまちづくりコンクール



1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の理念を継承してこの事業を推進しています

提唱

農林水産省
国土交通省

主催

花のまちづくりコンクール推進協議会

〔公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 公益財団法人都市緑化機構
一般財団法人日本花普及センター 公益財団法人日本花の会〕

後援

文部科学省 全国知事会 全国市長会 全国町村会 (一社)日本経済団体連合会 (一社)日本新聞協会 **NHK**

協賛

(公社)園芸文化協会 (一財)沖縄美ら島財団 (一財)公園財団 (一社)JFTD 全国公園協会協議会
(一財)地域活性化センター (一社)日本インドア・グリーン協会 (一社)日本植木協会
(一社)日本花き卸売市場協会 (一社)日本花き生産協会 (公社)日本家庭園芸普及協会
(公社)日本観光振興協会 (一社)日本公園施設業協会 (一社)日本公園緑地協会 (公財)日本さくらの会
(一社)日本施設園芸協会 (一社)日本種苗協会 (一社)日本造園組合連合会 (一社)日本造園建設業協会
(一財)日本造園修景協会 (公社)日本フラワーデザイナー協会 (一社)日本ホテル協会
(一財)日本緑化センター (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会

お問い合わせ先

コンクール事務局 公益財団法人日本花の会
コマツビルの建て替えにともない下記へ一時移転いたします

2023年12月まで

〒107-8414 東京都港区赤坂2-3-6 コマツビル TEL 03-3584-6531 FAX 03-3584-7695

2024年1月～2026年12月(予定)

〒105-8316 東京都港区海岸一丁目2-20 汐留ビルディング TEL 03-6849-9821 FAX 03-6849-9822

<https://www.hananokai.or.jp/city/>

表紙の写真 第33回(2023年)全国花のまちづくりコンクール 大賞受賞者

上段左 花てまりの会 / 上段中 黒部市立若栗小学校 / 上段右 太田 よしの

下段左 天浜線 人と時代をつなぐ 花のリレー・プロジェクト / 下段右 咲かそうひまわり

第33回(2023年)

全国花のまちづくりコンクール
報告書



花のまちづくりコンクール推進協議会

第33回(2023年)全国花のまちづくりコンクール 受賞者一覧

応募者数 878件 (市町村部門 2 団体部門 526 学校部門 193 個人部門 135 企業部門 22)

大賞(5件)

農林水産大臣賞

団体部門 花てまりの会

個人部門 太田 よしの

国土交通大臣賞

団体部門 天浜線 人と時代をつなぐ 花のリレー・プロジェクト

団体部門 咲かそうひまわり

文部科学大臣賞

学校部門 黒部市立若栗小学校

優秀賞(10件)

団体部門

しらかわバラの会
一般社団法人こだいら観光まちづくり協会
伊豆の国市商工会 女性部
特定非営利活動法人田原菜の花エコネットワーク
緑花クラブK O B E
名塩さくら台景観緑化クラブ

学校部門

五霞町立五霞中学校
長岡市立桂小学校

個人部門

西川 新吾

企業部門

あわじ花の歳時記園

奨励賞(4件)

団体部門

大湯「パンジーの会」
小杉花作り同好会
あいちサトラボ里山開拓団
フローラル レディース

入選(37件)

市町村部門

美幌町・美幌町フラワーマスター連絡協議会

団体部門

チーム夢(ときわ) 飯室谷町会
高岡市立醍醐公民館 花と緑の推進部会 市井自治会
花と緑の銀行 上市支店 木場瀧フローラの会
小瀬戸花いっぱいの会 高松宮竹花と緑の会
緑地花壇の会 グルッポふじとう地域住民サポーター さくらクラブ
高蔵寺ニュータウン・ハナモモ桃源郷の会 堀切地区ボランティアの会
伊丹市フラワーリーダー同好会8期生 鶉野中町花家族の会
岩出まちづくり協議会 花のまち IWAD E委員会 下里とも子ガーデン
小川お花畑ぐるーぷ ふれあいガーデン「くすな」
横川第二公園園芸クラブ 金田第一町内会
ふくおか花と緑の連絡会

学校部門

館林市立第九小学校 掛川市立千浜小学校
海南市立巽小学校 みなべ町立高城小学校
認定こども園 高見の森保育園

個人部門

海老沼 信江 松本 茂治
佐野 誉志照・恵美子 吉塚 志津恵
房谷 弘之 奥川 きみ子
尾花 幸雄 刈尾 安正・希美子
松浦 さつき・千春 佐々木 裕哲

努力賞(3件) … 地域の花のまちづくりに協力・参画している活動を選賞します

四つ葉賞

企業部門 医療法人社団 篠原医院

若葉賞

市町村部門 藤枝市花と緑の課・蓮華寺サポーター

団体部門 北九州市立小嶺児童館

特別賞(3件) … 当コンクールにおいて入賞回数が規定回に達した継続的な活動を特別に称えます

ゴールド賞(入賞回数10回)

個人部門 尾花 幸雄

シルバー賞(入賞回数5回)

学校部門 大湯「パンジーの会」

個人部門 刈尾 安正・希美子



コンクール審査委員長
齋藤 京子

第33回全国花のまちづくりコンクールの総応募数は878件となり、昨年の694件より184件増加しました。部門別にみると多い順に団体526件、学校193件、個人135件、企業22件、市町村2件でした。以前から団体、個人の応募が多く着実な活動が行われていることがわかります。学校の応募も増えており子ども達が花と緑に親しむのはとても嬉しいことです。一方、市町村、企業の応募はより増えて欲しいと願っております。

この度、栄えある各賞を受賞されました皆さまへ、心からお祝い申し上げます。そして、花のまちづくり活動に取り組む全ての皆さま及び日頃からこの活動を支援いただいている関係者の方々に心より感謝申し上げます。

「酷暑の夏を乗り切る花と緑と私たちの体力」が大事、そして長年の知見を次代に

酷暑の中、現地審査に行くと夏の花々が彩り良く元気に咲き、葉の色も濃く草勢も良く、土づくりから日頃の管理まで大変よく行き届いている様子が分かります。時間に制限なく管理している訳ではありません。そこには適期播種、土づくり、品種選定と組み合わせ、水やり等、長年の経験や知見に裏付けされた地域に合った栽培管理技術やノウハウがありました。夏場でも、十分注意し工夫して活動に取り組み、身体に無理なく楽しく活動されていました。

花のまちづくりコンクールにご応募いただく方々の年齢が比較的高く、今は大丈夫だが今後が心配という声も多く聞かれます。是非、皆さまの花のまちづくりの長年の知見を緩やかに次代に引き継いでいけるようにしていただきたいと思います。

例えば、花のまちづくりの発表会開催、子ども達と親たちも参加するイベント開催、花づくりの講座開催、動画の配信、地域の人たちも参加しての学校花壇づくり等、今回応募された方々も色々取り組みられており、更にこの取り組みを市町村などが広く情報発信していただいていることが、花のまちづくり活動の更なる広がりにつながっていると思います。

大賞受賞者の注目すべき高く評価された取り組み

花てまりの会は、観光都市である那智勝浦町内のポイントとなる花壇を19年間維持管理しており、南国で潮風の強い気候風土にあった植物選定や明るい色調の花壇デザインは、訪れる観光客に対するおもてなしの気持ちが表れています。活動年数が長くなり高齢化で会員数も減少する中で更に活動範囲を広げ、近隣から花壇指導を頼まれるなど活発な活動がされている素晴らしい取り組みとして高く評価されました。

太田よしの氏は、風光明媚だが海風、降雪、山に囲まれた地域の環境に合った植物を選定した自身の庭造りが素晴らしいこと、更に地域の自治会館や街角の駐車場など歩いて行けるウォークアブルな花のまちづくりにも貢献しています。また、町や県で数多くの委員、会長などもつとめ幅広く活動されるとともに、子どもたちへ花に興味を持つような声掛けや後進の指導など人材育成にも力を注いでいる広がりのある活動が高く評価されました。

天浜線人と時代をつなぐ花のリレー・プロジェクトは、沿線の駅を中心に130を超える地域団体や企業、学校などが協働事業として花壇整備と環境整備を行っているユニークな取り組みで、参加団体は年々増加しています。花のまちづくり活動が、鉄道自体の存続・

観光・地域活性化・地域住民や企業等との連帯醸成とその成果は大きく、活動の範囲、関わる組織の多さも群を抜いておりこれらが高く評価されました。

咲かそうひまわりは、雑草に覆われゴミ捨て場化した公共の場所を整備し、季節の花々や木々を植え地域の人にとって気持ちの良い自然風の景観を作り出しています。最初の活動から26年間、今も活動面積を増やし続けています。会員は高齢の方、障がいのある方、外国籍の方等と一緒に活動しており、イベントには多くの市民が参加します。公のスペースに市民が楽しんでガーデニングを行い美しい景観を作り出す素晴らしい取り組みが高く評価されました。

黒部市立若栗小学校は、校内の中心的花壇であるフラワーランドのテーマとデザインは、全校児童からの募集で決定し栽培管理する自主性の高い活動を行っています。花と緑の銀行から支給される苗や自前の苗等を使って行う花壇活動は、児童の学習に活かされています。全校児童と保護者による45年にわたる花壇活動は地域の花づくり活動の人材育成になっており、児童・先生・地域のこれらの取り組みが高く評価されました。

以上、第33回を迎えた全国花のまちづくりコンクールの審査講評を終わります。

団体部門 花てまりの会 和歌山県那智勝浦町



活動のきっかけ

2004年に那智勝浦町を活性化する為の4団体が発足しました。その1つが花壇での美化活動に取り組み「花てまりの会」です。「町を花いっぱいにして綺麗な花壇でおもてなしを



したい」との思いで、紀伊勝浦町駅の花壇植栽から活動を始めました。同駅は今も綺麗な花壇を維持しています。

会の名は、みんなで仲良くしている様子が「花てまり」の生育に似ていることが由来です。発足から19年間、常に「花てまり」の花を絶やさぬように努めています。

活動の概要

那智勝浦町は、世界遺産の熊野古道大門坂・熊野那智大社・那智山青岸渡寺・那智の滝・南紀勝浦温泉・延縄漁法による生鮮まぐろの水揚げ日本一を誇る勝浦漁港など、小さい町ですが素晴らしい観光地です。花壇は町の中に大・中・小と7か所あり、現在は9名で活動しています。メインの花壇、那智勝浦海浜公園では年2回植え替えをします。

春は、シレネピンクパンサー・ノースポール・チューリップ。夏は、マリーゴールド・センニチコウ・ニチニチソウ等。ほか、テラスライム2株を5月に購入し、挿し芽で増やしています。

鮮やかなライム色が広がる花壇はどこにもないステキな花壇だと思っています。少しでも綺麗な町であり、綺麗な花壇と「おもてなしの心」で大勢の観光客をお迎えしたいと、彩り華やかな植栽を心掛けています。

努力していること

花壇づくりを長い間行っていると、花のことが分かってきます。失敗も経験しました。同じ花ばかりにならないよう珍しい花の種を蒔いて、植栽が変化するように工夫しています。また、花々がいまきと咲いて、見た人が元気をもらえるように手入れは怠りません。花壇が引き立つよう、雑草やごみ拾いにも努めています。

活動の成果

昨春、町から「庁舎横の公園に遊具を置き新たに花壇を作りたい」とのお話をいただき、花壇のレンガを積むところからデザインし、綺麗で華やかになったと喜んでいただきました。



今春は、新宮市の団体から「花壇に花を咲かせたい」とのご相談をいただき、アドバイスをして夏花壇に花を植えました。今後もお付き合いとアドバイスを継続出来ればと思います。

今後の展開

会員が減少しましたが、初期メンバー3人が残り活動しています。出席率がよいので何とか花の手入れが出来ていますが、年齢が高くなり今後の事が心配です。なんとか会員を増やせればと思います。花を育てることは日々の積み重ねです。でも好きでやっていること、作業が終わった後の充実感や爽快感、休憩を皆と談笑できる事が一番の幸せです。これからも行政や町の方々と共に那智勝浦町の活性化に役立ちたいです。受賞を励みにこれからも頑張ります。

個人部門 太田 よしの 兵庫県香美町



活動のきっかけ・活動の概要

今回農林水産大臣賞という大きな賞を頂き、身に余る光栄の事と思い、また周りの方々の強力なご協力のお蔭と感謝申し上げる次第です。

私は、兵庫県の北端に位置し、自然の美しい山陰海岸国立公園の一角、但馬海岸にある里に、2001年移住しました。この地「香美町」は、合併した小代・村岡・香住の三地域からなり、海あり山ありの風光明媚な美しい所で、但馬牛やカニ等を求めて、多くのお客様が訪れる地域です。2002年に「地域を花で盛り上げたい」と活動を開始し、2006年からは地域の方々と一緒に自宅の庭を公開するオープンガーデンを始めました。気が付けば、早22年の月日が経ち、花緑に関する様々な活動のボランティアに従事している日々です。

努力していること

私が住んでいる訓谷地区は、110軒程のごぢんまりとした集落です。民宿が25軒近くあり、観光地でもあります。



今、多様性の時代に突入り、自分自身ボランティアといえども、この地に何が必要か、何が出来るのかを日々考えあぐねております。大事な事は「無理をしないで、楽しんで、長く花緑の活動をしていく事」「自分をはじめ一人一人が地域の為になっている」と認識できる取り組みだと思えます。

活動の成果

色々と活動しながら、姿を変え、今地区の方々が無理なく緑化活動に参加できるようになったのが「2鉢運動」です。各戸で2鉢分の花苗を年に2回植栽し育てる運動です。現在では45軒以上の方々が参加してくれて、地区内のあちらこちらにフラワーロードが出来ています。各戸の鉢は、オープンガーデンのウェルカムフラワーとなったり、民宿のお客さんの散歩時等の癒しになっていたりしています。長期に亘って地区全体で花によるおもてなしを継続できるようになりました。



また、オープンガーデンは、2日間で800人以上も訪れて頂いている他、地区内の子ども達やお年寄りの方々にも楽しんで頂いています。「佐津地区オープンガーデンフェスタ」として但馬では春一番の地区を挙げてのオープンガーデンフェスタとなっています。

今後の展開

刻々と高齢化が進み今後の継続が危惧される中、今回の受賞が大きなきっかけとなり、縦横の関係を更に深め、若い世代も巻き込んだ交流を広め、この地に合った活動を継続しながら、次の世代に引き継いでいきたいです。

団体部門 天浜線 人と時代をつなぐ 花のリレー・プロジェクト 静岡県浜松市



活動のきっかけ

過疎化が進む静岡県西部・中山間地域の振興を図るため、この地域に愛着を感じ住み続けられるように、また静岡県内外から多くの方が訪れる観光振興も目的に、魅力ある花のまちづくりのプロジェクトを2018年にスタートしました。

活動の概要

天浜線沿線に花を植え、育てる活動は、浜松いわた信用金庫・天竜浜名湖鉄道・はままつフラワーパークが三位一体で取り組んでいます。〈浜松いわた信用金庫〉は、植栽地の工事、花木の購入等の費用負担、植栽地の除草活動を行うメンバー集めを。〈天竜浜名湖鉄道〉は、沿線工事立ち合い、関係各所調整を。〈はままつフラワーパーク〉は、日本初女性樹木医・塚本こなみ氏による植栽総合プロデュースを。こうして、天浜線沿線67.7kmの駅や沿線に18箇所の植栽地が誕生しました。



努力していること

植栽地の維持管理はアダプト・プログラムの仕組みを取り入れました。アダプトとは養子縁組という意味で、担当植栽地を我が子のように愛情を持って育ててほしいという思いを込めました。すべてのアダプト団体はボランティアで取り組んでいます。プロジェクトの趣旨に賛同した企業、学校、花の会等、70団体で活動開始後、活動に共感した企業、団体等からは是非参加したいとの申し出をいただき、現在133団体、参加人数

は延べ9,210人と、地域住民との連携が広がっています。

活動の成果

活動前は、ローカル鉄道で市街地が少なく、線路沿いの土地や公園は雑草が生い茂り、空き缶やペットボトルなどのゴミが多く捨てられ、景観が損なわれていました。活動により、花木の植栽地が変わったことでゴミなどは捨てられなくなり、今では住民の散歩コースなどにも使われ、明るいまちづくりに寄与しています。当初は購入苗を植栽していましたが、宿根草を植栽したこと、企業や高校の園芸部から余剰球根や挿し木で増やした花木を寄贈いただくなど、現在はほとんど費用負担のない持続可能な取り組みに発展しています。除草活動についても、こちらから依頼する前にアダプト団体から活動希望日の相談があるなど、メンテナンス活動も軌道に乗っています。



今後の展開

美しくなった天浜線沿線を多くの方に見ていただき、観光産業の発展に寄与していきたいと考えています。昨年度は、観光マップ「遠州さんぽ」及び自動音声ガイド「おともたび天浜線編」を制作し、植栽地及び沿線観光スポットの紹介と観光振興につながる取り組みを開始しました。今後もさらにアダプト団体を増加させ、まちを包括した協力の輪を広げていきたいと考えています。

団体部門 咲かそうひまわり 愛知県碧南市



活動のきっかけ

碧南市水源公園と農業用水にはさまれた250m×2m=500㎡にゴミが散乱する雑草地がありました。この空き地の環境美化を目的に、1998年4月に数人のメンバーと口コミで集まった多くの皆さんにご参加いただき、ひまわりの種蒔きを始めました。その後、公園内のガーデン、農業用水跡地のガーデン他と活動面積を拡げ、現在5,200㎡のガーデンを市民有志で手入れしています。

活動の概要

ガーデン面積5,200㎡、通路など含む管理面積25,000㎡を、主力メンバー1~7名/毎日、障害者就業支援センターから15~20名/週、ふれあい作業所から5名前後/週、で活動し、年間約3,000時間活動しています。ガーデンの面積が広大で、工夫をしないと苗代がとても高額になります。費用を抑えるため、①種を収穫しバックヤードで育てる ②直播する ③こぼれ種を活用する ④宿根草や球根等を活用する などに取り組み、90%以上は0円で賄っていますが、それでも30万円程度の苗を購入しています。公園にいつ訪れても緑と花を絶やさないよう、部分的植え替え方式を採っています。苦労もありますが、毎年ガーデンデザインを考えることを一番の楽しみとして日々活動に動んでいます。公園で採取した種や球根等の余剰分は、花と緑のまちづくりの応援になればと思い有効活用いただける方へ無償提供しています。花は、いけばな・ドライフラワー・お供えなどにも活用しています。また幼児の皆さんにも楽しん



でもらえるよう苺も植えています。

努力していること

手間はかけても極力費用をかけないガーデンづくりを目指しています。整備に携わる私達は、ガーデニングを楽しみ、公園を訪れた方には、憩いの場として愛されるスペースとなるよう心掛けています。

活動の成果

生垣の下枝カット、植栽のガーデン化などにより、ブラックボックスであった公園が見通せる公園に生まれ変わり、安全な場所となりました。障害者就業支援センターの皆さんの勉強の場としても、有効に機能しています。



今後の展開

私達の技術レベルも若干は向上してきましたが、まだまだ発展途上にあり、今まで以上に素敵なガーデンを目指し、かつ市民による公園の環境美化活動のモデルになるよう努めます。更に水源公園に留まらず市内の他のガーデンと連携し、碧南市全体の環境美化向上に寄与できたら幸いです。コロナ禍で休止していた「ひまわり種蒔き」「花苗植え付け&芋掘り」等のイベントを再開し、未来を担う子ども達に私達の活動を伝えていきたいです。

学校部門 黒部市立若栗小学校 富山県黒部市



活動のきっかけ

今年創立150周年を迎えた本校の花壇は、「フラワーランド」の愛称で子供たちや地域の方々から親しまれています。1978年、新校舎が完成して間もない頃に、「草花に親しみ、自然とのふれ合いを通して子供たちの情操を豊かにしたい」という願いを保護者と学校が共有し、手造りで造られました。以来45年間、本校が目指す子供の姿の一つである「美しい心の子供」の育成に重要な役割を担っています。



活動の概要

フラワーランドの活動は、環境委員会の子供たちが中心となり、全校で取り組んでいます。毎年、花壇のテーマとデザインを子供たちから募集し、決定したデザインに合わせて保護者と教員でづくりをします。花苗の植え付けはペア学年で行い、上級生がこれまで自分がしてもらった経験を生かし、下級生に花苗の扱い方や植え付け方を優しく教えます。週2回の花壇整備の時間に全校児童が交代で除草や花がら摘みを行ったり、理科や生活科の学習で生長を観察したりするなど、日常的に花と関わることで、花や自然に親しみをもち、大切にしようとする態度が育っています。

努力していること

花を育て、美しく長く咲かせるためには、日々の世話の積み重ねが大切です。天候の影響や害虫が付くことで、上手く

育たず枯れてしまうことも多々あります。一方で、丁寧に世話をすることで花が元気を取り戻したり、たくさんの方が美しく咲いたりするのを見ると、生命の力強さ、尊さを感じることができます。花を育てる活動を通して、生命を慈しみ大切にすることを育んでいます。

活動の成果

45年間続いている活動の中でも、春・秋の年2回、保護者と協働で行う花壇整備は、若栗地区の伝統となっています。保護者の中には、小学生の時に自分の親がしていたことを懐かしく思い出しながら作業をしているという方もおられます。若栗小学校で花に親しみ育った子供たちが大人になり、それぞれの家庭で花を育てることで、花を愛する心が世代を超えて受け継がれ、地域に花の輪が広がっています。



今後の展開

地域の人に親んでもらえるフラワーランドを目指して、様々な工夫を凝らしています。入り口にはアサガオの大きなアーチや看板があり、来校された方々を出迎えます。今年は、複数回チラシを作り地域で回覧していただいたことで、たくさんの方が訪れてくださいました。今後は、地域の方々日々の活動にも参画していただく方法を模索し、フラワーランドを通じた地域とのつながりや交流をより深めていきたいと思ひます。

団体部門 しらかわバラの会 福島県白河市



小峰城、白河駅など歴史的建造物を結ぶ小峰通りに沿った30mの区画に約100本のバラを植栽し、華やかな彩りで人々を惹きつけています。かつて小峰城内にあったバラ園の撤去を残念に思っていたバラ好きの有志が集い、町の活性化と美しい街並みづくりに貢献したいと、2022年に「こみねガーデン」を整備しました。以来、行政とも連携し、白河駅前へのバラ苗寄贈や、初夏の開園式では子ども達によるパレードを行うなど、ガーデンがコミュニティの拠点として地域に根付いています。活発な人的交流のほか、栽培講習会の開催、樹名板には特性把握のQRコードを付けるなど、地道な普及啓発活動を通じて地域にバラが波及していることが、高く評価されました。

団体部門 一般社団法人こだいら観光まちづくり協会 東京都小平市



会員数100名の市の外郭団体で、小平市内26箇所のオープンガーデンを取りまとめ、地域交流および市外からの観光客の集客、魅力度の配信を2007年から行っています。小平市を取り囲むグリーンロードの一つ、狭山・境緑道脇の「花街道花壇」では、宿根草を中心に種や挿し木から植栽の維持管理に努めています。その他、オープンガーデンは個人邸、駅前広場、生産者、カフェ等飲食店、農協の屋上庭園など、幅広く多彩な個性を持つ庭が揃っています。年2回のオーナー会議、講演・講習会の開催や、近隣の大学と連携し学生と改善点を考察するなど、将来を見据えた活動や、オープンガーデンマップなど広報ツールの充実が、高く評価されました。

団体部門 伊豆の国市商工会 女性部 静岡県伊豆の国市



中小事業所の事業主や配偶者で構成される団体で、伊豆の国市を花のあふれる観光の街にしようと、2007年から、約15名を中心に市内3ヶ所の花壇で子ども達も交えながら活動しています。国道と県道が交わる葦山反射炉入口付近の花壇では、北条義時の生誕地を花でPRするなど、地域の観光資源を活かしたデザインで人々を楽しませています。土は市内で排出された生ごみや牛ふんを利用し、植栽は宿根草も積極的に用いるなど、環境に配慮した取り組みも行っています。地域振興や世代間交流による地域コミュニティの再生に大きな役割を果たしていることや、「花咲く伊豆の国推進協議会」での活動、花フェアへの積極的な参加、交流などが、高く評価されました。

団体部門 特定非営利活動法人田原菜の花エコネットワーク 愛知県田原市



遊休農地を中心に市の花「菜の花」を活用した花のまちづくりを、2005年から市民協働で進めています。農業産出額が全国トップクラスのノウハウを活かし、53,000㎡の敷地に約1,000万本の「菜の花」(景観用・食用・採油用)と「ひまわり」を巧みに組み合わせ、美しい農村景観を創出しています。同団体の活動によって、行政・市民・事業者間で強固な連携体制が育まれ、地域振興・環境共生・持続可能な地域づくり、学習活用、市民の郷土愛の醸成に発展しています。菜の花による遊休農地対策が、次の担い手に引き継がれているとともに、産業・観光・教育・環境・文化の分野へも大きく貢献するまちづくりの事例として、高く評価されました。

団体部門 緑花クラブK O B E 兵庫県神戸市



市主催のガーデナー養成講座修了生有志が、2000年に三宮駅前で花壇づくりを始めました。再開発に伴い、2018年からは「神戸文化ホール」の花壇(20㎡)を拠点に34名で活動しています。市街地でも自然を感じられるようにと花木や宿根草を多用し、洗練されたデザインで来訪者を楽しませています。主な花苗は自家生産し、ローコストで美しい花壇を維持しています。メンバーは毎月の会議や「緑化通信」で情報を共有し、6班での灌水・除草・花がら摘み、全員参加の植替、補植やイベントなどで、交流を深めています。丁寧な花壇づくりを民主的な運営で長年継続していることや、地域に寄り添ったコミュニティの創出を実現していることが、高く評価されました。

団体部門 名塩さくら台景観緑化クラブ 兵庫県西宮市



自分達が住む約700区画の住宅分譲地で荒地や不法投棄が目立つようになり、まちを綺麗にしたいという思いから、2014年に遊歩道や自治会館周辺での景観整備活動を2名で始めました。綿密な計画と豊かな感性で住民や行政の賛同と連携を深め、現在は10名を中心に約1,800㎡で活動しています。植栽は自生のミツバツツジを活かしながらローコスト、ローメンテナンスを目指し、花木と宿根草を軸に構成するほか、播種栽培にも努めています。また造成工事で生じた余剰資材も随所に活用し、統一感のある景観を築いています。活動を通じまちは美しく変化しました。まちの価値を高めたことや、植栽レベルの高さ、皆が楽しく活動を続けている点などが、高く評価されました。

学校部門 五霞町立五霞中学校 茨城県五霞町



生徒数166名。教育目標に「心豊かな生徒」の育成を掲げ、2013年から「花いっぱい学校づくり」に取り組んでいます。活動は生徒会と環境整備委員会を中心に、全校生徒、教職員、保護者、地域ボランティアとの協同作業で行っています。正門と通用門の花壇で約8,000株の花を彩り豊かに植栽する他、西洋アサガオのグリーンカーテン作りやホームページでの花の情報配信にも取り組んでいます。種まき、育苗、土づくり、植えつけ、水やり、除草など、全生徒が自主性を持って花に関わり、協力しながら生き生きとした花壇を創り上げている点や、年間計画がきちんと練られて組織が成り立っている点、活動を通じて豊かな心が育てられている点が、高く評価されました。

学校部門 長岡市立桂小学校 新潟県長岡市



農村域にある児童数35名の小学校で、「花を育て花に学ぶ」を合言葉に1961年から花や緑を育む活動をしています。校庭には地域の古墳に因んだ「まがたま花壇」をはじめ6種類、延べ120㎡の変化に富んだ美しい花壇があります。活動は学年を越えた縦割り班により、上級生の指導を受けて下級生も一緒にデザインや品種の選定を行うなど、全児童が協力しながら、自主的、主体的に取り組んでいます。また学校の活動を応援する地域住民ボランティア「花の会」約30名との協働作業も年間を通じて行われています。地域と連携を図りながら、児童主体で故郷に誇りを持つ活動を継続している点や、オープンガーデンを開催し新たな交流も育んでいることが、高く評価されました。

個人部門 西川 新吾 滋賀県近江八幡市



2001年にハンギングバスケットマスターになり、花の魅力をより多くの人に伝えたいという思いから、花育や花のまちづくり活動を始めました。2009年から10年間開催した自宅庭でのオープンガーデンには、GWの開催期間中に毎年数千人が来場するなど、地域の花づくりに大きな影響を与えました。現在自宅庭は福祉関係者への公開とし、活動の軸足を公共の場や講演活動に移行しています。公民館や神社仏閣の花飾り、市民や学生を対象にした寄せ植え教室、住民団体を立ち上げてコミュニティガーデン整備や支援に取り組んでいます。講習会は「花のまちづくり」の講演を併せて実施するなど、花のまちづくりの普及啓発に精力的に取り組み続ける姿勢が高く評価されました。

企業部門 あわじ花の歳時記園 兵庫県淡路市



自然豊かな里山が広がる淡路島・長沢地区への移住をきっかけに、担い手がなくなった農地を夫婦で取得し、1997年からアジサイ園の整備と地域の植物を活用した体験教室を開いています。園には約10,000㎡の敷地に約70品種3,500株のアジサイや花木が植栽され、四季折々豊かな景観が楽しめます。体験教室では、園内の植物を用いたスワッグ作り、筆作り、絵手紙作り、草木染め作り、竹炭作り、酵素シロップ作り、味噌作り等、衣食住にわたる多彩なプログラムを展開し、多くの方が一年を通じて訪れています。遊休地を活用した好事例であることや、新規移住者にとって先駆者として心強い存在であることなど、地域の活性化に貢献している点が高く評価されました。

団体部門 大湯「パンジーの会」 秋田県鹿角市



団体部門 小杉花作り同好会 富山県射水市



団体部門 あいちサトラボ里山開拓団 愛知県長久手市



団体部門 フローラル レディース 宮崎県延岡市



市町村部門

美幌町・美幌町フラワーマスター連絡協議会



北海道美幌町

木場潟フローラの会



石川県小松市

小瀬戸花いっぱいの会



静岡県静岡市

団体部門

チーム夢（ときわ）



北海道栗山町

高松宮竹花と緑の会



静岡県静岡市

緑地花壇の会



愛知県名古屋

飯室谷町会



神奈川県川崎市

高岡市立醍醐公民館 花と緑の推進部会



富山県高岡市

グループふじとう地域住民サポーター さくらクラブ



愛知県春日井市

高蔵寺ニュータウン・ハナモモ桃源郷の会



愛知県春日井市

市井自治会



富山県射水市

花と緑の銀行 上市支店



富山県上市町

堀切地区ボランティアの会



愛知県田原市

伊丹市フラワーリーダー同好会 8期生



兵庫県伊丹市

鶉野中町花家族の会



兵庫県加西市

岩出まちづくり協議会 花のまち IWADE 委員会



和歌山県岩出市



学校部門

館林市立第九小学校



群馬県館林市

下里とも子ガーデン



和歌山県那智勝浦町

小川お花畑ぐるーぷ



和歌山県古座川町

掛川市立千浜小学校



静岡県掛川市

海南市立巽小学校



和歌山県海南市

ふれあいガーデン「くすな」



広島県広島市

横川第二公園園芸クラブ



広島県広島市

みなべ町立高城小学校



和歌山県みなべ町

認定こども園 高見の森保育園



福岡県北九州市

金田第一町内会



福岡県北九州市

ふくおか花と緑の連絡会



福岡県福岡市



個人部門

海老沼 信江



栃木県壬生町

松本 茂治



群馬県館林市

佐野 誉志照・恵美子



静岡県浜松市

佐々木 裕哲



和歌山県有田川町

吉塚 志津恵



愛知県江南市

房谷 弘之



兵庫県姫路市

奥川 きみ子



兵庫県西宮市

尾花 幸雄



兵庫県加西市

苅尾 安正・希美子



兵庫県たつの市

松浦 さつき・千春



兵庫県たつの市

努力賞・四つ葉賞

企業部門
医療法人社団 篠原医院



静岡県菊川市

努力賞・若葉賞

市町村部門
藤枝市花と緑の課・蓮華寺サポーター



静岡県藤枝市

団体部門
北九州市立小嶺児童館



福岡県北九州市

生きる場所をつくる。

ルン村のポーさんは14歳の時、地雷を踏んだ。

「森の木を伐採している時でした」

ポーさんの右脚は義足だ。

周りにも被害に遭った人は多くいたという。

コマツは2008年以降、

「日本地雷処理を支援する会(JMAS)」と協働で、

カンボジアとラオスでの

地雷除去支援活動をおこなっている。

ICTブルドーザー D65PX-15E0

本業で培った経験と技術を駆使して、

ブルドーザーや油圧ショベルをベースに

対人地雷除去機を開発。

地雷を処理した跡地では建機を転用して、

農地の開発も支援している。

ICT技術搭載のブルドーザーで農地を均平化すると、

田んぼの収穫量は約2倍になった。

「昔は地雷があり、農作業も怖かったが、今はもう安心です。

土地が開発されて暮らしも安定した」

ポーさんには三人の子供がいて、

一番下の子は現在コマツが建設を支援した小学校に通っている。

子供たちには勉強することでより良い仕事についてほしいと語る。

地雷が埋められた危険な土地から

安心して暮らせる土地へ。

その土地に農地や道路や小学校をつくり、

希望をもって暮らせる場所へ。

建設機械で、人が生きる場所をつくる。

コマツです。

地雷を除去し、農地として整備し、収穫の効率と量を上げる。

コマツは建設機械で復興支援を進めていきます。



私の生きる場所ができるまで
カンボジア復興支援サイト

美しいは楽しい
ひろがる小松

第30回
全国

のまちづくり
小松大会

令和6年 5月25日(土) 26日(日)

花めぐりおもてなし期間: 5月3日(金祝)~31日(金)

メイン会場: JR小松駅周辺 式典会場: 石川県小松市 團十郎芸術劇場うらら

主催: 小松市 / 全国花のまちづくり小松大会実行委員会 / 花のまちづくりコンクール推進協議会



KOMATSU
Creating value together